

沿革:高知県立図書館

平成29年	5月	29年5月時点で提供するデータベースは全19種類となる。
平成29年	5月	マーケティング情報データベース「Mpac」、雑誌記事の索引データベース「ざっさくプラス」「Web OYA-bunko」、医学・歯学・薬学・看護学及び関係分野の論文情報データベース「医中誌Web」、看護に関する文献情報データベース「最新看護索引Web」、ブリタニカ国際大百科事典ほかを収録した「ブリタニカ・オンライン・ジャパン」の提供を開始する。
平成29年	4月	法情報総合データベース「D1-Law.com」の提供を開始する。
平成29年	2月	新図書館等複合施設「オーテピア」のロゴマークを決定する。 旧高知県森林整備公社(高知市)に朝倉書庫を設ける。
平成29年	1月	オーテピア高知図書館サービス計画を高知県・高知市で策定する。
平成28年	12月	山本貴金属地金(株)のふるさと納税により、図書404点を購入する。機械工業を中心とする経済・産業・企業に関するデータベース「BIコモンズ電子ライブラリ」の提供を開始する。
平成28年	10月	企業情報を提供するデータベース「CD・Eyes50」の提供を開始する。
平成28年	8月	世界の産業、経済、消費者情報を提供する英文データベース「リサーチモニター」、医学・薬学・科学技術文献情報のデータベース「JDream III」の提供を開始する。
平成28年	7月	朝日新聞記事データベース「聞蔵IIビジュアル」、読売新聞記事データベース「ヨミダス歴史館」、市場情報評価ナビ「MieNa(ミーナ)」の提供を開始する。
平成28年	4月	総務企画担当チーフ及び司書1名を新図書館整備課の兼務職員とする。 新図書館整備課主幹1名を図書館の兼務職員とする。 高知県立図書館協議会と高知市立市民図書館協議会の委員を同一とし、両協議会を原則として同時開催することとする。
平成28年	3月	新図書館(高知県立図書館、高知市民図書館本館)の対外的な一般名称を「オーテピア高知図書館」とする。
平成27年	12月	山本貴金属地金(株)のふるさと納税により、図書391点を購入する。
平成27年	9月	新図書館等複合施設の愛称が「オーテピア」に決定する。
平成27年	6月	新図書館の開館に向け、県市合同による新図書館情報システムの暫定稼働を開始する。
平成27年	4月	組織を改正し、専門企画員(司書育成・サービス推進担当)及び総務企画担当チーフを置く。
平成26年	12月	山本貴金属地金(株)のふるさと納税により、図書380点を購入する。
平成27年	7月	新図書館等複合施設の建築工事に着手する。
平成27年	3月	LEDでECOになる会からの寄附により図書を132点購入する。
平成27年	1月	国立国会図書館の「図書館向けデジタル資料送信サービス」の利用を開始する。
平成25年	12月	山本貴金属地金(株)のふるさと納税により、図書410点を購入する。
平成25年	11月	LEDでECOになる会からの寄附により図書を54点購入する。
平成25年	8月	新図書館等複合施設の実施設設計が完了する。
平成25年	7月	高知県立図書館・高知市民図書館共通利用カードの発行を開始する。
平成25年	5月	毎日新聞記事データベース「毎索」の提供を開始する。
平成24年	12月	山本貴金属地金(株)のふるさと納税により、図書425点を購入する。 新図書館情報システム等の基本設計が完了する。 農業データベース「ルーラル電子図書館」の利用を開始する。

平成24年	3月	『土佐國群書類従拾遺』の出版を始める(全7巻、平成30年度完了予定)。 新図書館等複合施設の基本設計が完了する。 高知県立大学総合情報センターと相互協力に関する協定を締結する。 高知短期大学総合情報センターと相互協力に関する協定を締結する。 高知県国際交流協会と相互協力に関する協定を締結する。
平成24年	2月	『土佐國群書類従』の出版に対して第56回高知県出版文化賞特別賞を受ける。
平成23年	12月	山本貴金属地金(株)のふるさと納税により、図書467点を購入する。
平成23年	7月	新図書館等複合施設整備基本計画が、高知県教育委員会において策定される。 高知学園短期大学図書館と相互協力に関する協定を締結する。 倉庫3に空調設備を設け、マイクロフィルムを移転、保管する。
平成23年	6月	旧大栃高等学校(香美市)に外部書庫を設ける。
平成23年	4月	利用サービス担当チーフ及び司書1名を新図書館整備課の兼務職員とする。 サピエ図書館会員となる。
平成23年	3月	新図書館(高知県立図書館、高知市民図書館本館)基本構想が、高知県教育委員会において決定される。
平成23年	1月	子ども読書室に子育て支援図書コーナーを設置する。
平成22年	12月	山本貴金属地金(株)のふるさと納税により、図書350点を購入する。 子育て支援図書セットの県内市町村図書館等への貸出しを開始する。
平成22年	3月	高知新聞データベースを導入する。 1階書庫(No.8)を移動式書架に改修する。 高知工科大学附属情報図書館と相互協力に関する協定を締結する。
平成21年	12月	山本貴金属地金(株)のふるさと納税により、図書405点を購入する。
平成21年	10月	高知県モラロジー協議会青年クラブ連絡会から児童書161点の寄贈を受ける。
平成21年	8月	「高知県の図書館行政のあり方」を提言する。
平成21年	4月	坂本龍馬研究者・作家であった故宮地佐一郎氏の旧蔵書を収めた「宮地佐一郎文庫」を公開する。 移動図書館バス運行を委託する。
平成21年	3月	国際ソロプチミストよさこい高知から児童書130点の寄贈を受ける。
平成20年	9月	山本貴金属地金(株)のふるさと納税により、プログラミングやウェブ・デザインの図書を中心とした「ヤマキン・ライブラリー」をジョブ・コーナー内に開設する。
平成20年	7月	高知県モラロジー協議会青年クラブ連絡会から児童書39点の寄贈を受ける。
平成20年	4月	組織をグループ制からチーフ制に改正する。(支援協力担当チーフ、情報資料担当チーフ、利用サービス担当チーフを置く。) 広告掲載の移動図書館バスの運行を開始する。 宅配貸出(障がい者)サービスを開始する。
平成20年	3月	図書館情報システムを更新する。
平成20年	1月	1月 移動図書館バスの車体への広告主の募集を開始する。
平成19年	5月	高知大学総合情報センター(図書館)と相互協力に関する協定を締結する。
平成19年	4月	IT環境の充実のため、公衆無線LANを2階ジョブ・コーナーに設置する。 総務課を廃止し、4課制から3グループ制に改正する(情報資料課を情報資料グループ、利用サービス課を利用サービスグループ、普及協力課を普及協力グループに改正)。 2階西閲覧室をジョブ・コーナーとして整備する。

平成16年	2月	高知県視聴覚ライブラリーを高知市大原町の高知県教育センター分館へ移転する。
平成15年	8月	「塩見文庫」の公開を始める。
平成14年	3月	図書館情報ネットワークシステムを設置する。
平成13年	4月	国立国会図書館総合目録ネットワークに参加する。
平成12年	12月	1階に移動式書架を追加設置する。
平成12年	7月	ホームページを開設する。
平成12年	4月	図書館情報システムの運用を開始する。 館内組織を総務課、資料課、利用サービス課、普及協力課の4課制に改正する。
平成12年	1月	1階に移動式書架を設置する。
平成11年	3月	北側玄関の自動ドア化と車いす進入斜路の拡幅を行う。
平成10年	12月	『土佐國群書類従』の出版を始める(全13巻、平成22年完了)。
平成10年	2月	2月『南路志』の出版に対して、第42回高知県出版文化賞特別賞を受ける。
平成9年	9月	9年9月 子ども読書室の開館時間を午前9時から午後5時までとする。
平成8年	11月	8年11月 第28回児童に対する図書館奉仕全国研究集会並びに平成8年度日本図書館協会公共図書館部会児童図書館分科会委員会を高知市で開催する。
平成8年	9月	資料の書誌情報のデータ化作業を開始する。
平成7年	3月	「新高知県立図書館整備構想」を高知県教育委員会が発表する。
平成6年	11月	日曜開館を開始する。
平成6年	3月	高知県社会教育委員会が、同上の諮問に対する答申を行う。
平成5年	3月	高知県教育委員会が高知県社会教育委員会に対して「今後の県立図書館の整備・運営のあり方について」を諮問する。
平成2年	6月	『南路志』の出版を始める(全10巻、平成9年度完了)。
平成2年	4月	工業所有権広報類地方閲覧所を高知県工業技術センターに移管する。
昭和62年	12月	第16回全国移動図書館研究集会を高知市で開催する。
昭和59年	5月	高鴨文庫を開設する。
昭和57年	1月	『憲章簿』の出版を始める(全7巻、昭和61年12月完了)。
昭和55年	11月	昭和56年度全国公共図書館奉仕部門研究集会を高知市で開催する。
昭和55年	3月	対面朗読室を改造し、視力障害者の誘導路を設置する。
昭和54年	11月	開館100周年記念行事として、功績者及び寄贈者に表彰状及び感謝状を贈呈するとともに、貴重蔵書特別展を開催する。
昭和54年	2月	『皆山集』の出版に対して、第23回高知県出版文化賞を受ける。
昭和53年	4月	対面朗読を開始する。
昭和52年	6月	高知県立図書館報(『とさみずき』)を復刊する。
昭和52年	4月	館長の下に次長制を敷く。
昭和51年	1月	県下郷土資料総合目録の出版に対して、第20回高知県出版文化賞を受ける。
昭和50年	12月	身体障害者利用のための施設改造を行う。
昭和50年	7月	全国移動図書館研究集会を高知市で開催する。
昭和49年	10月	古文書等緊急調査事業(川北文書)を昭和49年度文化庁補助事業により実施する。
昭和49年	3月	高知県公立図書館長会が発足する。
昭和48年	12月	『皆山集』の出版を始める(全10巻、昭和53年3月完了)。
昭和48年	10月	全国図書館大会を高知市で開催する。
昭和48年	8月	新館落成式を挙げる。

		子ども読書センターが発足する。
昭和48年	6月	古文書等緊急調査事業(川北文書)を昭和48年度文化庁補助事業により実施する。
昭和47年	4月	新館建設のため塩見文庫へ一時移転する。
昭和46年	4月	走るこども図書館(自動車文庫)を開設する。
昭和45年	3月	農業文庫を本庁(農林部)へ移管する。
昭和43年	10月	第1回高知県図書館大会を開催する。
昭和41年	1月	長宗我部地検帳の出版に対して、高知県出版文化特別賞を受ける。
昭和40年	4月	へき地学校巡回文庫を開設する。
昭和38年	4月	「親子ひととき読書運動」を始める。
昭和37年	9月	農業文庫を県下の農業指導所に置く。
昭和32年	3月	長宗我部地検帳の出版を始める(全19点、昭和40年3月完了)。
昭和30年	4月	開架式閲覧方式を始める。
昭和28年	7月	日米センター増築開館する。
昭和28年	6月	古文書研究会が始まる。
昭和25年	6月	高知市丸ノ内3番地に新館落成、開館式を行う。
昭和23年	7月	全国初の自動車文庫を開設する。
昭和21年	8月	海南中学校(現高知小津高等学校)で臨時開館する。
昭和21年	1月	山内家より山内文庫の寄贈を受ける。
昭和20年	7月	戦災のため館舎は焼失し、疎開寸前の蔵書13万点は灰燼に帰する。
昭和15年	4月	産報文庫を開設する。
昭和14年	11月	国民精神総動員文庫を開設する。
昭和13年	8月	夏季大衆講座を開設する。
昭和9年	2月	文部省から高知県中央図書館の指定を受ける。
昭和5年	2月	開設50周年記念式典を挙げる。
大正15年	4月	高知県立図書館報第1号を発行する。
大正6年	5月	図書の館外貸出しを開始する。
大正6年	4月	巡回文庫を開設する。
大正5年	3月	高知市丸ノ内6番地に高知県立図書館が落成する。 大正天皇御即位の記念事業である。
明治29年	5月	高知市丸ノ内(現高知城ホール)に高知図書館が新築され、懐徳館から移転する。
明治21年	10月	書籍館を高知教育会に寄託し、高知図書館と改称する。
明治12年	8月	高知公園内懐徳館に高知書籍館(しょじゃくかん)を設置する。本図書館の始まりである。(蔵書点数35,186点)